

平成 30 年度  
(2018 年度)

## 事業報告書

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

公益財団法人ユニジャパン

# 平成 30 年度 事業報告

## I. [事業の状況]

### 1. 国際映画祭事業

- 名称： 第 31 回東京国際映画祭
- 主催： 公益財団法人ユニジャパン  
(第 31 回東京国際映画祭実行委員会)
- 共催： 経済産業省 (TIFF プラス)  
国際交流基金アジアセンター (アジア映画交流事業)  
東京都 (コンペティション部門、ユース部門)
- 期間： 平成 30 年 10 月 25 日 (木) ~平成 30 年 11 月 3 日 (土・祝)
- 企画： コンペティション、アジアの未来、日本映画スプラッシュ、特別招待作品、  
特別上映、ワールド・フォーカス、JAPAN NOW、  
CROSSCUT ASIA #05 ラララ♪東南アジア、日本映画クラシックス、ユース、  
アニメーション監督 湯浅政明の世界、アジア三面鏡 2018 : Journey、  
トリビュート・トゥ・コメディ、ミッドナイト・フィルム・フェス!、  
TIFF マスタークラス、TIFF プラス、“映像 百花繚乱” 上映会、  
TOWER LIGHT CINEMA、みなと上映会、Japan Content Showcase2018、  
第 15 回文化庁映画週間 他
- 会場： 六本木ヒルズ、EX シアター六本木 (以上、港区)、東京ミッドタウン日比谷 日  
比谷ステップ広場、東京国際フォーラムホール C をメイン会場とし、その他都  
内劇場及び施設・ホールを使用
- 後援： 総務省／外務省／観光庁／港区／独立行政法人日本貿易振興機構／  
国立映画アーカイブ／公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団／  
一般社団法人日本経済団体連合会／東京商工会議所／  
一般社団法人日本映画製作者連盟／一般社団法人映画産業団体連合会／  
一般社団法人外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション (MPA) ／  
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／  
特定非営利活動法人映像産業振興機構／一般社団法人日本映像ソフト協会／  
一般財団法人角川文化振興財団／一般財団法人デジタルコンテンツ協会／  
一般社団法人デジタルメディア協会
- 支援： 文化庁
- オフィシャルパートナー： 木下グループ／日本コカ・コーラ株式会社／アメリカン航空
- プレミアムスポンサー： キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社／  
株式会社 WOWOW
- スポンサー： 大和証券グループ／  
ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社／  
株式会社スターチャンネル／三井不動産株式会社／  
一般社団法人日比谷エリアマネジメント／テタンジェ／

ソニー PCL 株式会社／セイコーホールディングス株式会社／  
スック／SHISEIDO／コスメデコルテ／株式会社 TSUTAYA  
コーポレートパートナー：松竹株式会社／東宝株式会社／東映株式会社／株式会社 KADOKAWA／  
日活株式会社／森ビル株式会社／TOHO シネマズ株式会社／  
一般社団法人映画演劇文化協会  
メディアパートナー：株式会社 J-WAVE／株式会 InterFM897／日本映画放送株式会社／  
株式会社テレビ朝日／松竹ブロードキャスティング株式会社／  
株式会社ジャパンタイムズ／ダウ・ジョーンズ・ジャパン株式会社／  
ヤフー株式会社／株式会社 GYAO／LINE 株式会社／株式会社つみき  
フェスティバルサポーター：株式会社 IMAGICA Lab.／関西電力株式会社／人気酒造株式会社／  
ゲッティ イメージズ ジャパン株式会社／  
株式会社クララオンライン／メルセデス・ベンツ日本株式会社 /  
株式会社ぐるなび／サッポロビール株式会社／日本電気株式会社

### 【開催概要】

第31回東京国際映画祭は、平成30年10月25日(木)から11月3日(土・祝)まで10日間、六本木ヒルズ、及び、EXシアター六本木をメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。

久松猛朗フェスティバルディレクターの2年目であり、第31回という新たな第一歩となる本年度の映画祭は、引き続き一定レベルの委託事業予算を確保できたため、祝祭感の醸成、認知度・知名度の更なる向上、上映部門数・上映本数増による鑑賞機会の拡大、動員数の増を図った。具体的には、昨年に引き続き、六本木ヒルズとEXシアター六本木を活用、映画祭全体のコンパクトで効果的な運営を狙った。上映部門としては、従来の部門をきちんと押さえつつ、日本映画を代表する作品を海外に紹介する「JAPAN NOW」では特集として、世界的にも知名度があり、日本を代表する俳優・役所広司特集を行い、また5年目を迎える国際交流基金との共催企画「CROSSCUT ASIA #05 ラ・ラ・ラ♪東南アジア」、及び、アジア・オムニバス映画製作シリーズ「アジア三面鏡 2018: Journey」のワールドプレミアを実施、ジャパンアニメーション特集は「アニメーション監督 湯浅政明の世界」といった数多くの企画を実施した。

また、映画祭全体を盛り上げるための施策として、TIFF プラスを実施。ファッション、音楽、アニメ、観光×食、eスポーツ、スポーツの6つの業種との連携イベントを六本木ヒルズアリーナ、EXシアター六本木等で行い、従来のお客様に加え、各分野のファンの方々も参加し、大成功を収めた。また、3月にオープンした東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場でも連日の屋外上映を行い、大変盛況であった。それ以外にも、六本木ヒルズアリーナで開催したスポーツ映画の屋外上映会 Cinema Athletic 31、AN企画「ミッドナイト・フィルム・フェス」の実施や、トリビュート・トゥ・コメディの実施等を行い、より広い映画ファンへの映画祭の認知に努めた。そして、若い映画ファン、若い映画製作者の育成を目的としたユース部門ではTIFF ティーンズ映画教室 2018 という2年目になる取組みも行き、映画祭を良い形で拡大する事が出来、評価も得た。

その結果、今映画祭の自主企画は41企画で、動員数は236,657人。前年対比は117.3%と過去最大級の動員を果たす事が出来た。上映作品数は187本。

オープニングセレモニーは、10月25日（水）にEXシアター六本木にて開催された。冒頭、来賓の平井卓也内閣府クールジャパン戦略・知的財産戦略担当大臣、及び、宮田亮平文化庁長官による祝辞をいただき、その後、来賓紹介、そして、映画祭アンバサダー松岡茉優と司会の笠井信輔による映画祭企画概要の紹介を行った後、まず、オープニング作品「アリー／スター誕生」のスペシャルサポーターとして寺島しのぶが登壇、挨拶し、次に、JAPAN NOW 部門の特集である役所広司、そして、海外スペシャルゲストとして、「ホワイタクロウ」がコンペティション部門に選出された英国俳優のレイフ・ファインズがそれぞれ登壇し、映画祭出品への抱負を述べた。更に、「アジア三面鏡 2018 : Journey」のゲストのご紹介、各部門の審査委員の紹介を行い、最後に、コンペティション部門国際審査委員長のフィリピン映画界の巨匠であるブリランテ・メンドーサによる挨拶でしめ、大変盛沢山で華やかなセレモニーとなった。

その後、グランドハイアット東京の宴会場に場所を移し、オープニング・パーティーが行われた。オープニング作品の上映はセレモニーに先駆けて TOHO シネマズ六本木ヒルズで行われた。

アワードセレモニー（授賞式）は、11月2日（金）にEXシアター六本木で開催された。授賞式では、冒頭、今年2年目になる“東京ジェムストーン賞”を発表、木竜麻生、カレル・トレンブレイ、リエン・ビン・ファット、村上虹郎の4名が受賞した。その後、「日本映画スプラッシュ」部門、「アジアの未来」部門の各贈賞に続き、「コンペティション」各部門の授賞が発表された。

コンペティション部門の「東京グランプリ」及び最優秀脚本賞 Presented by WOWOW の2賞はミカエル・アース監督作品『アマンダと僕』に、審査員特別賞はマイケル・ノア監督の『氷の季節』に、観客賞は坂本順治監督の『半世界』に贈られた。また、「アジアの未来 作品賞」はリナ・ワン監督の『はじめての別れ』に、「アジアの未来 国際交流基金アジアセンター特別賞」はホアン・ホアン監督（『武術の孤児』）が選ばれた。「日本映画スプラッシュ 作品賞」は野尻克己監督の『鈴木家の嘘』に、そして、今回、新設した監督賞には武正晴監督（『銃』）、田中征爾監督（『メランコリック』）に贈られた。その後、グランプリ作品『アマンダと僕』が上映された。終映後、アカデミーヒルズ49階タワーホールに会場を移してクロージングパーティーを開催、審査委員メンバー、各賞受賞者等、多数の方が参加された。翌3日（土・祝）東京国際フォーラムホールCにて、映画祭アンバサダー松岡茉優による簡単なクロージングセレモニーと共に、クロージング作品『GODZILLA 星を喰う者』の監督、ボイスキャスト、ゴジラ（着ぐるみ）が勢揃いし、大いに盛り上がりを見せ、好評のうちに終了した。

## 【自主企画】

### （1）コンペティション （共催：東京都）

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2018年1月以降に完成した長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備審査を経た16作品を期間中上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト（作品関係者）によるQ&Aを行い、観客との交流の輪を広げた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、5名（日本人1名を含む）で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行い、東京グランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀女優賞、最優秀男優賞、最優秀芸術貢献賞、脚本賞の7賞が決まり、11月2日のアワード・セレモニー会場で発表された。東京グランプリには5万米ドル、審査員特別賞には2万米ドル、その他の賞に5千米ドルが副賞として贈られた。東京グランプリ作品には東京都知事の賞状とトロフィー（麒麟像）

が贈られた。また、みなと委員会の協力により、一般観客の投票による観客賞が設けられ、賞金 1 万米ドルが 1 作品に贈られた。

- ・東京グランプリ：『アマンダと僕』（監督：ミカエル・アース）
  - ・審査員特別賞：『氷の季節』（監督：マイケル・ノア）
  - ・最優秀監督賞：エドアルド・デ・アンジェリス（作品：『堕ちた希望』）
  - ・最優秀女優賞：ピーナ・トゥルコ（作品：『堕ちた希望』）
  - ・最優秀男優賞：イエスパー・クリステンセン（作品：『氷の季節』）
  - ・最優秀芸術貢献賞：『ホワイトクロウ』（監督：レイフ・ファインズ）
  - ・最優秀脚本賞 Presented by WOWOW：『アマンダと僕』（監督：ミカエル・アース）
  - ・観客賞：『半世界』（監督：坂本順治）
- 上映本数 16 作品 動員数 17,731 人

## （2）アジアの未来

アジア（日本、中東地域を含む）で作られた、新鋭監督の 1 本目から 3 本目までの長編作品を対象にした、フレッシュなコンペティション部門。かつてあった、「ヤングシネマ・コンペティション」部門の精神を復活させ、若い才能を東京から世界に発信していく。

「アジアの未来」部門で上映された作品の中から、審査委員会により 1 作品が選ばれ、賞金 1 万米ドルが贈られた。また、昨年につき、今年も国際交流基金アジアセンターの支援のもと、「国際交流基金アジアセンター特別賞」が国際交流基金アジアセンター特別賞審査委員により 1 名が選ばれた。

- ・作品賞：『はじめての別れ』（監督：リナ・ワン）
  - ・国際交流基金アジアセンター特別賞：ホアン・ホアン監督（『武術の孤児』）
- 上映本数 8 作品 動員数 3,722 人

## （3）日本映画スプラッシュ

旧来の「日本映画・ある視点」部門の精神を引き継ぎ、日本のインディペンデント映画を応援する部門。海外にしぶき（Splash!）を上げて飛び出して行けるような力のある作品、豊かな才能を感じさせる監督たちを積極的に紹介。上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、100 万円が贈られた。

- 作品賞：『鈴木家の嘘』（監督：野尻克己）
  - 監督賞：武正晴監督（『銃』）
  - 田中征爾監督（『メランコリック』）
- 上映本数 9 作品 動員数 3,570 人

## （4）特別招待作品

国内未公開の主な話題作品を 15 本厳選し、上映。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭の PR と観客動員に貢献した。

- 上映本数 15 作品 動員数 7,378 人

#### (5) 特別上映

国内未公開の話題作品を3本選定し、上映。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映本数 3作品 動員数 912人

#### (6) ワールド・フォーカス

世界の国際映画祭で話題になった作品、製作国で大ヒットしている作品、注目監督の新作等を取り上げ、8月末時点で日本の公開が未定である作品を多数紹介。当映画祭での上映をきっかけに国内公開が決まったケースも多い。今年も世界で話題になっている数々の新作を紹介した。尚、今年はいзраエル大使館の後援により「イスラエル映画の現在 2018」のミニ企画も実施。

上映本数 19作品 動員数 9,009人

#### (7) 「CROSSCUT ASIA #05 ラ・ラ・ラ♪東南アジア」

国際交流基金アジアセンターと東京国際映画祭のコラボレーション・シリーズ第5弾。今年は音楽を切り口とした作品を揃え、大変な好評を得た。

上映本数 13作品 動員数 3,357人

#### (8) 「JAPAN NOW」

現在の日本映画を支える代表的な監督の作品を選定し、海外に対して今の日本映画が持つ大きな可能性と意欲を発信する事を目的とした部門。代表作9本に加え、今の日本を代表する俳優・役所広司の特集上映として新作を含む5作品を上映。連日、ゲストによるQ&Aが行われ、大変好評を博した。

上映本数 14作品 動員数 2,278人

#### (9) 「日本映画クラシックス」

日本の名作のデジタル修復版を上映する部門。今年はいら島雄三生誕100年として代表作3本を4Kデジタル修復版にて上映した。

上映本数 3作品 動員数 251人

#### (10) ユース部門

ユース部門「TIFF ティーンズ」は中学生以上が対象、映画を通してティーンズが一步前に進む原動力を得ることを願い、また、未来の映像作家や映画ファンの創出につながることを目指した。会期中、3本の作品を上映。また、「TIFF ティーンズ映画教室 2018」では、昨年、「勝手にふるえてろ」が観客賞を受賞した大久明子監督を講師に迎え、4チーム24名の中学生による夏休み9日間の映画製作教室を行い、完成された作品は東京国際映画祭会期中にワールドプレミアとして上映され、多くの関係者を集め大変好評であった。

ユース部門「TIFF チルドレン」では、山崎バニラの活弁大絵巻他1プログラムを実施、大変、意義深い取り組みとなった。

上映本数 11本 動員数 1,550人

### (11) 「アニメーション監督 湯浅政明の世界」

今年アニメーション監督特集は、唯一無二の表現で世界中の人々を魅了している湯浅政明に焦点を当てた。監督にも毎回登壇して頂き、作品に関するゲストとの談話も大いに盛り上がった。新作「君と波に乗れたら」のタイトル発表も行うなど、大変、有意義なイベントとなった。

上映本数 12 作品 動員数 511 人

### (12) 「アジア三面鏡 2018 : Journey」

国際交流基金アジアセンターとの取り組みである、アジア・オムニバス映画製作シリーズ第 2 弾である「アジア三面鏡 2018 : Journey」のワールドプレミア上映、記者会見、シンポジウムを行った。当日は、デグナー監督、女優のチェン・ジュン、ゴン・チェ(以上、デグナー監督「海」のゲスト)、松永大司監督、長谷川博己、女優のナンダーミャッアウン(以上、松永監督「碧朱」のゲスト)、エドウィン監督、俳優のニコラス・サプットウラ、オカ・アンダラ、女優のアグニ・プラティスタ(以上、エドウィン監督「第三の変数」ゲスト)が勢ぞろいし、アジアの若手監督 3 名の未来への希望を感じさせる瑞々しい 3 作品が紹介された。

上映本数 1 作品 動員数 633 人

### (13) 野外上映 Cinema Athletic 31

第 31 回は、オリンピックイヤーも近づきつつある中、「TIFF プラス」での屋外スポーツイベントの実施もあり、スポーツ映画特集を行った。会期中の六本木ヒルズアリーナにて上映。また、飲食店等の出店もあり、会場は連日大いに盛り上がった。

上映本数 11 本 動員数 820 人

### (14) Tower Light Cinema

今年は「みなと区民まつり」(10月6日)とのコラボが実現、まつりの後に、同一地区会場である都立芝公園にて大スクリーンを設置して上映。東京の象徴ともいえる東京タワーを背景に上映がなされ、大変、良い雰囲気の上映となった。

上映本数 1 本 動員数 151 名

### (15) ミッドナイト・フィルム・フェス!

ハロウィン間近の週末 10 月 26 日(金)の夜に、様々なジャンルのオールナイト上映を同時に行い、フェス感を盛り上げた。

上映本数 9 本 動員数 820 人

### (16) トリビュート・トゥ・コメディ supported by BS10 スターチャンネル

映画館を笑いで包む大変楽しいコメディ映画を特集。4K レストア版での『お熱いのがお好き』は日本初上映。上映時には魅力的なゲストによるトークも行った。

上映本数 5 本 動員数 605 人

### (17) TIFF マスタークラス

今年マスタークラスは、「岩代太郎—映画音楽人生論」「ブライアン・バーク氏による『ハリ

ウッドでのプロデュース業』『アミール・ナデリによる演劇論と俳優ワークショップ』『映像表現の今、そして未来』『アジア三面鏡』シンポジウム」の5プログラムを実施、それぞれ特徴のあるマスタークラスとなり、大変意義のあるものとなった。

動員数 629名

### (18) TIFF プラス

今年、初めて6つの異業種連携イベントを実施。いずれも大変好評であった。

(ファッション)

「FASHION GALA~BEAMSとGQ JAPANで創る大胆不敵なファッションショー~」

10月26日(金) 六本木ヒルズアリーナ 動員数:493人

(音楽)

「JAMLAB.Presents JAPAN ANIME MUSIC SHOWCASE 2018」

10月28日(日) 六本木ヒルズアリーナ 動員数:1,048人

(アニメ)

「新作公開記念!!「KING OF PRISM-PRIDE the HERO-」上映会&THUNEDR STORM SESSION DJ Party」

10月30日(火) EXシアター六本木 動員数:842名

「高畑勲監督 特別上映会」

2作品上映 TOHO シネマズ六本木ヒルズ 動員数:220人

(eスポーツ)

「『ドラゴンボールファイターズ』“超(スーパー)”マッチ」

11月2日(金) 六本木ヒルズアリーナ 動員数:144名

(スポーツ)

「TOKYO MEET UP SPORTS 2018」

11月3日(土・祝) 六本木ヒルズアリーナ 動員数:2,044人

「平昌2018冬季オリンピック公式映画「クロッシング・ビヨンド」上映

11月3日(土・祝) 東京国際フォーラムホールC 動員数:472人

### (19) 東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場 屋外上映イベント

東京ミッドタウン日比谷の日比谷ステップ広場に高精細のLEDパネルを用いた屋外上映スクリーンを設置。連日、上映会を行い、また、最終日にはゴジラ・フェスとも連動し、大きく動員を稼ぎ、大変な好評を得た。

10月25日(木) 日比谷オープニング・イベント 六本木のOPカーペット中継等を実施

10月26日~11月2日 「ビデオの日」とのコラボイベント“映像百花繚乱”上映会

15作品を上映

11月3日(土・祝) ゴジラ・フェス2018

総動員数:29,791人



**[共催・提携企画]**

**(1) 第15回文化庁映画週間**

①平成30年度文化庁映画賞贈賞式

優れた文化記録映画に賞を贈呈すると共に、日本映画を支えてきた功労者を顕彰。

会期：10月25日（木） 場所：グランドハイアット東京

②平成30年度文化庁映画賞受賞記念上映会

文化庁映画賞を受賞した3作品を上映すると共に、各作品の監督を招きQ&Aを行った。

会期：10月28日（日） 場所：神楽座

②シンポジウム

「日中映画制作の新展開」をテーマに、国際的に活躍する業界人から最新状況を聞いた。

会期：10月29日（月） 場所：六本木アカデミーヒルズ49 オーディトリウム

**(2) 日本映画監督協会新人賞、上映とシンポジウム** 10月31日（水）

岩切一空監督作品『花に嵐』上映に続き、岩切監督と本年度コンペ作品「翳りゆく父」のガブリエラ・アマラウ・アウメイダ監督との対談を行った。

**(3) みなと上映会** 10月27日（土）

名作クラシック映画の上映、親子向けのアニメーションの上映を実施した。

**(4) WOWOW 映画工房「ファッション・ドキュメンタリー・セレクション」 in 東京国際映画祭**  
10月26日（金）

ファッションドキュメンタリー4作品のオールナイト上映とトークショーを実施。

**(5) 特別提携企画 「PFF アワード 2018」グランプリ受賞作品上映** 11月2日（金）

PFF アワード 2018 グランプリ作品『オーファンズ・ブルース』の上映、および、Q&Aを実施。

**(6) 「SKIP シティ国際Dシネマ映画祭 2018」作品上映** 11月1日（水）

SKIP シティ国際Dシネマ映画祭 2018 の受賞作品『岬の兄妹』が上映された。

**(7) BS10 スターチャンネル 映画アカデミー：今どきのヒット映画の裏側** 11月1日（木）

映画界で活躍する関係者をゲストに交え、ヒット映画の裏側を解説するトークイベントを公開収録で行った。

場所：六本木アカデミーヒルズ49 オーディトリウム

**(8) 京都フィルムメーカーズラボ** 10月27日（土）～11月2日（金）

選抜された国内外の若手映像作家を対象に、TIFF 審査員ほかを迎えて12つのセミナーを開催。

場所：京都文化博物館、東映京都撮影所ほか

**(9) MPA セミナー** 10月26日（金）

オンライン上の著作権侵害対策について、世界各国のベストプラクティスを紹介した。

場所：六本木アカデミーヒルズ49 オーディトリウム

**(10) MPTE AWARDS 2018 第71回表彰式**

10月30日(火)

映像製作現場の技術者を表彰する日本で唯一の賞「MPTE AWARDS」各賞の授与が行われた。

場所：六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム

**(11) 映文連 国際短編映像祭 映文連アワード2018**

11月26日(月)～11月28日(水)

受賞31作品を6つのプログラムに分けて上映。玉川奈々福さんをゲストに迎えてのトークは大盛況であった。

場所：国立新美術館講堂(表彰式)、ユーロライブ(上映会)

**(12) NFAJ 所蔵 現代アメリカ映画選集**

10月25日(木)～11月4日(日)

東宝東和株式会社の協力を得て寄贈された、日本語字幕付き米国映画 35 ミリプリントを上映。

場所：国立映画アーカイブ長瀬記念ホール OZU

**(13) 「映画・映像の未来」鑑賞の新たなスタンダードに向けて-広がるバリアフリー視聴環境-**

10月28日(日)

最新字幕表示メガネ機器4社の展示・体験会を行うと同時にバリアフリー上映会を実施。

会場：東京ミッドタウン日比谷 6階 BASE Q/日比谷ステップ広場

**(14) 映画業界本音ガイダンス2018～映画の配給・宣伝ってどんな仕事？～**

10月31日(水)

当初の予想を超える来場があった。学生が約40%でゲストへの質問も多く寄せられた。

会場：ビジョンセンター東京有楽町

**(15) SKIP シティ国際Dシネマ映画祭2018**

7月13日(金)～22日(日)

今年で15回目となるSKIP シティ国際Dシネマ映画祭が埼玉県川口市で開催された。

場所：SKIP シティ映像ホールほか

**(16) 第40回 PFF (ぴあフィルムフェスティバル)**

9月8日(土)～9月22日(土)

「PFF アワード2018」、ロバート・アルドリッチ監督特集、追悼たむらまさき、映画講座などを展開。

場所：国立映画アーカイブ

**(17) ショートショートフィルムフェスティバル & アジア 2018 秋の上映イベント**

10月5日(金)～12日(金)

2018受賞作品を含む39作品を上映、上田慎一郎監督によるセミナーも開催。

場所：アンダーズ東京/東京都写真美術館

**(18) コリアン・シネマ・ウィーク 2018**

10月26日(金)～27日(土)/29日(月)～11月1日(木)

日本未公開4作品を含む最新の韓国映画6作品を上映、ゲストによるティーチインも実施。

場所：韓国文化院ハンマダンホール

(19) 2018 東京・中国映画週間 10月19日(金)～26日(金)  
日中映画祭の「ゴールドクレイン賞」も3回目を迎えた。 場所: TOHO シネマズ日比谷ほか

(20) 第12回田辺・弁慶映画祭 11月9日(金)～11月11日(日)  
コンペティション作品、招待作品等、計19本を上映。 場所: 紀南文化会館

(21) ポーランド映画祭2018 11月10日(土)～23日(金)  
ポーランド独立回復100周年特集や、イエジー・スコリモフスキ監督作品の上映、トークも実施。  
会場: 東京都写真美術館1Fホール

(22) キネコ国際映画祭2018 11月22日(木)～26日(月)  
野外上映を2日間開催のほか、国内外のアーティストによるワークショップを開催。  
場所: 109 シネマズ二子玉川ほか

(24) 第15回ラテンビート映画祭 11月1日(木)～25日(日)  
本年度は、12か国から14本の作品を上映。 場所: 新宿バルト9ほか

(25) 「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」発表会 10月29日(月)  
アニメツーリズム協会選定の「訪れてみたい日本のアニメ聖地88(2019年版)」を発表  
場所: 六本木アカデミーヒルズ49タワーホール

#### [顕彰・助成]

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの若手の優秀作品に対する顕彰(アジアの未来 作品賞)。
- ③ 日本映画の優秀作品に対する顕彰(日本映画スプラッシュ 作品賞、監督賞)。

#### [運営]

##### ① 自主企画の実施

本年度は、新規部門も含めた以下の部門(「コンペティション」「アジアの未来」「日本映画スプラッシュ」「特別招待作品」「ワールド・フォーカス」「JAPAN NOW」「TIFF ティーンズ」「TIFF チルドレン」他)を実施した。

##### ② 上映会場、各種会場

六本木地区、及び、日比谷地区をメイン会場とした。

・主要上映会場:

TOHO シネマズ六本木ヒルズ(9スクリーン)

EX シアター六本木(1スクリーン)

東京国際フォーラムホールC

- ・その他の会場（提携企画等を上映、実施）：

東京ミッドタウン日比谷 日比谷ステップ広場、六本木ヒルズアリーナ、神楽座、都立芝公園ほか

- ・また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

「グランドハイアット東京」：オープニング・レセプションの会場として使用。

「森タワー」：映画祭事務局、プレスセンター、記者会見場、各種取材部屋、各種セミナー会場、レセプション会場

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」：Tokyo Film プラザとして使用。

「ヒルズカフェ」：Tokyo Film Lounge として使用。

「六本木ヒルズ アリーナ」：Tokyo Film Arena として連日、各種イベントの実施に使用。

### ③ 入場料金

- オープニング／クロージング／GALA スクリーニング／アワード・セレモニー＋東京グランプリ受賞作品 一般：2,500円 学生前売・当日：2,000円
- 特別招待作品 一般：1,800円 学生前売：1,500円 学生当日：500円
- 特別上映（高畑勲特集） 一般：1,300円 学生前売：1,000円 学生当日：500円
- 特別上映（上記作品以外） 一般：1,800円 学生前売：1,500円 学生当日：500円
- コンペティション、アジアの未来、日本映画スプラッシュ、ワールド・フォーカス、アジア三面鏡 2018：Journey 一般：1,500円 学生前売：1,000円 学生当日：500円
- CROSSCUT ASIA（「悪魔の季節」） 一般：2,000円 学生前売：1,500円 学生当日：500円
- CROSSCUT ASIA（上記作品以外） 一般：1,500円 学生前売：1,000円 学生当日：500円
- JAPAN NOW（『ペンギン・ハイウェイ』『きみの鳥はうたえる』『菊とギロチン』） 一般：1,800円 学生前売：1,500円 学生当日：500円
- JAPAN NOW（上記以外の作品） 一般：1,300円 学生前売：1,000円 学生当日：500円
- 日本映画クラシックス 一般：1,300円 学生前売：1,000円 学生当日：500円
- ユース（チルドレン／ティーンズ／映画教室） 一般：1,300円 学生前売：500円 学生当日：500円
- トリビュート・トゥ・コメディ 一般：1,300円 学生前売：1,000円 学生当日：500円
- アニメーション監督・湯浅政明の世界 一般：1,300円 学生前売：1,000円 学生当日：500円
- その他企画上映 一般：1,300円 学生前売：1,000円 学生当日：500円
- ミッドナイト・フィルム・フェス！ 一般：3,500円 学生前売・当日：3,500円
- WOWOW 映画工房オールナイト上映 一般：5,000円 学生前売・当日：5,000円
- TIFF プラス「KING OF PRISM」 一般：3,000円 学生前売・当日：3,000円
- TIFF プラス JAPAN ANIME SHOWCASE2018(T シャツ付き) 一般：2,700円 学生前売・当日：2,700円
- TIFF プラス FASHION GALA (BEAMS ギフトカード 3000円分付き) 一般：8,000円 学生前売・当日：8,000円
- TIFF マスタークラス「映像表現の今」 一般：1,500円 学生前売・当日：1,500円

#### ④会期中のイベント

【Tokyo Film Arena 六本木ヒルズ アリーナイベント】

○オープニング・イベント：10月25日（木）

レッドカーペットからの流れで作品ゲストが特設ステージに登壇して挨拶。

○デイリーイベント10月26日（金）～11月3日（土・祝）

- ・ Cinema Athletic31 スポーツ映画を多数上映
- ・ FASHION GALA～BEAMS と GQ JAPAN で創る大胆不敵なファッションショー～
- ・ JAMLAB.Presents JAPAN ANIME MUSIC SHOWCASE 2018
- ・ 『ドラゴンボールファイターズ』“超(スーパー)” マッチ
- ・ TOKYO MEET UP SPORTS 2018
- ・ FOOD TRAVEL～日本の「観光」×「食」を世界へ 笑顔の連鎖！～
- ・ GALA スクリーニング作品「人魚の眠る家」カーペットイベント
- ・ 「セカイ系バラエティ 僕声」SP トークショー2018 in 東京国際映画祭

【Tokyo Film プラザ】

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」を Tokyo Film プラザと称して、一般来場者の寛ぎスペースとして演出した。中央にテーブルを配し、防寒対策でストーブを設置。インフォメーションブース、チケットブース、キッチンカーを設置、サイン会等も活発に行われた。アメリカン航空による乗機体験コーナーも大変好評であった。

【Tokyo Film Lounge】

ヒルズカフェを TIFF 会期中、JAPAN BEAUTY WEEK とのコラボレーションによる Tokyo Film Lounge として展開、誰もが入場できる寛ぎスペースとすると共に、JAPAN BEAUTY WEEK 参加のスク、SHISEIDO、コスメデコルテの特設ブースを設置した。

#### ⑤ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFF の WEB サイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場での案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらう試みも実施した。

#### ⑥オリジナル・グッズの販売

TIFF オフィシャルグッズとして、公式プログラム、サコッシュを販売した。

#### ⑦クラウドファンディング

本年度もクラウドファンディングを通じ「東京国際映画祭サポーター」を募集した。今年は値段設定や特典（オープニングレッドカーペット入場券をうまく活用）の工夫をすることで前年以上の参加者を得た。

#### 【広報活動】

##### 1. メディア登録者数

国内メディア：1,227名 海外メディア 725名

パス発行、プレスセンター運営、会期中のマスコミ対応はすべてバイリンガル対応を実施

## 2. 国内宣伝パブリシティ

露出数：14,332

TV 媒体広告換算値：10 億 809 万 7354 円

WEB 媒体広告換算値：85 億 9635 万 3692 円

テレビ番組での特集放送、新聞での映画祭総括記事、映画専門誌への特集掲載、WEB ポータルサイトへの特集掲載など

## 3. 海外宣伝パブリシティ 露出数：5,123

アジアの未来で中国勢がダブル受賞したこと、またコンペ中国の 2 作品（『詩人』『三人の夫』）が受賞しなかったこと（コンペに入っていたこと）のニュースが多く出たものの、海外媒体にひきのある世界的に著名なゲストが少なく、アワード・セレモニーも代理受賞が多い条件だったため、全世界的に配信されるニュースが少なく、露出は伸び悩んだ。

## 4. 記者会見

○ラインナップ発表会見 2018 年 9 月 25 日 虎ノ門ヒルズ メインホール

○会期中のコンペティション部門記者会見 TOHO シネマズ劇場内

○受賞者記者会見 2018 年 11 月 2 日 EX シアター カフェ

5. 国内宣伝広告 . . . . . WOWOW ミニ特番、スターチャンネルスポットほか、InterFM897 スポット、J-wave 告知、Yahoo!映画/GYAO 記者会見独占生放送、LINE LIVE 生放送、Filmarks 広告、SNS 広告

6. 海外宣伝広告 . . The Wall Street Journal、The Japan Times/ The New York Times Variety、Screen International、The Hollywood Reporter 他

7. 海外プレス招聘 . . 23 カ国・地域より 49 名のジャーナリストを招聘。加えて、Hollywood Foreign Press Association から記者を 5 名受け入れ。

## 8. 宣材物

予告編 . . . . . 2018 年 9 月 21 日より首都圏各劇場にて上映

メインビジュアル . . 昨年大変好評を得た、蜷川実花氏の写真を今年も採用

紙媒体 . . . . . プログラム、映画祭ガイド、公式記録はすべて日英表記にて作成

## 9. 公式 WEB、SNS の展開

SNS 展開には特に力を入れており、新たに専門会社に委託した他、海外専門の SNS 担当を事務局内に配置。媒体の特性に合わせて戦略的に国内外へと発信。

<各 SNS フォロワー数>

Twitter : 45,717 / Twitter (ENG) : 196 Facebook : 20,079

LINE : 21,805 Instagram : 4,978 YouTube : 4,151

10. Cyber TIFF . . 東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。公式 WEB 及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFF の最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの様子はインターネットへの配信を実施した。また、撮影した素材は各マスコミに提供して東京国際映画祭の情報発信に寄与した。

(森ビル・六本木ヒルズおよび EX シアターでの広報活動)

会期前の 10 月 23 日（火）より最終日の 11 月 3 日（土）まで、六本木ヒルズ内の大型広告スペースにおいて、オープニングクロージング作品の大型ビジュアル、映画祭ビジュアルやロゴ、ま

た映画祭と各作品のポスター等を掲出。EXシアターも同様の装飾で両会場を華やかに盛り上げた。

- ① 地下鉄通路 地下鉄コンコースコルトン、地下鉄コンコースシート
- ② メトロハット 内周バナー、外周シート、エスカレーター下柱巻き・コルトン、メトロハット・ビジョン
- ③ 66 プラザ 水景、ポスターボード
- ④ 大屋根プラザ 吊り下げバナー、台形柱シート、
- ⑤ TOHO シネマズ エントランスバナー、エントランス階段シート
- ⑥ ヒルズカフェ ファサード、カフェ前台形柱シート
- ⑦ アリーナ ステージ、フォトスポット、レッドカーペット
- ⑧ けやき坂 歩道バナー
- ⑨ EX シアター エントランス

#### (日比谷地区での広報活動)

ミッドタウン日比谷での屋外大型 LED ビジョンの裏面を華やかでインパクトのある映画祭ビジュアルで装飾し、会場の賑わいを演出した。同様のビジュアルをストリートバナーでも展開した。

#### (東京都交通媒体での広報活動)

東京都交通局のご協力のもと、10月1日(日)から11月3日(土)までの長期間に渡り、都営地下鉄および都営バスと映画祭とのタイアップキャンペーンの告知を行った。

- ① 都営地下鉄全駅 構内ポスター掲出 150 枚
- ② 都営地下鉄 中吊り掲出 1,525 枚
- ③ 都営地下鉄全駅 チラシ設置 10,500 枚
- ④ 都バス窓上広告掲出 1,542 枚
- ⑤ 都バス全車内 チラシ設置 14,710 枚
- ⑥ 東京都媒体での告知記事掲載・乗り隊歩き隊臨時号(9/8発行)、バスマガジン(9月号)、沿線ガイドびっくあっぷ(10月号)

#### [東京国際映画祭地区委員会の活動]

「みなと委員会」・・・港区、麻布警察署、麻布消防署、東京地下鉄株式会社、東京商工会議所、森ビル株式会社、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会である。第31回の開催においても、会期前から会期中を通じて会場周辺や港区内の各所で東京国際映画祭を盛り上げる様々な活動を展開した。

○プレイベント上映会 区民を対象とした第30回受賞作品等の上映回を開催  
2018年9月29日(土) / 9月30日(日)

赤坂区民センター区民ホール(入場者数 930名)

○みなと上映会 区民を対象にしたクラシック作品、アニメーション上映会の開催  
2018年10月27日(土)  
TOHO シネマズ六本木ヒルズ(入場者数 191名)

- 観客賞 観客の投票によって選ぶコンペ作品への賞(賞金 1 万米ドル)  
贈賞 2018 年 11 月 2 日(金) アワード・セレモニー内  
受賞作品上映会 2018 年 11 月 2 日(金)  
TOHO シネマズ六本木ヒルズ(入場者数 278 名)  
受賞作品『半世界』  
登壇者 阪本 順治 監督
- 街頭フラッグの掲出 けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街、材木町商店会にて合計 230 枚  
2018 年 10 月 13 日(土)～11 月 3 日(土・祝)
- みなとクリーンアップ  
六本木ヒルズ会場、六本木駅、麻布十番駅周辺と会場までの道路沿いの  
清掃を行った。  
2018 年 10 月 13 日(土) 午前 9 時 30 分受付開始
- みなと区民まつり 増上寺エリアのテントにおいて東京国際映画祭の PR 活動を行った。  
2018 年 10 月 6 日(土)  
※10 月 7 日(日)は台風の影響により中止となる。
- 告知記事掲載 港区の Kiss ポート誌 8 月号にプレイベント募集、9 月号にみなとクリーン  
アップ募集記事、10 月号にみなと上映会、観客賞募集記事を掲載し、  
港区内の全戸に新聞折込配布した他、主要駅、公共施設で合計 15 万枚を  
配布した。

## 2. TIFFCOM 開催事業

### 「Japan Content Showcase/TIFFCOM」の製作運営

#### ■ TIFFCOM 2018 開催概要

- ① 主催： 経済産業省／公益財団法人ユニジャパン
- ② 共催： 第 31 回東京国際映画祭
- ③ 同時開催： 第 15 回東京国際ミュージックマーケット (15<sup>th</sup> TIMM) ※  
東京国際アニメ祭 2018 秋 (TIAF 2018 Autumn)
- ④ 日程： 平成 30 年 10 月 23 日(火)～10 月 25 日(木)
- ⑤ 会場： サンシャインシティ コンベンションセンター他  
※TIMM は渋谷エクセルホテル東急を主会場に開催 (10/22～24)

#### ■ TIFFCOM 2018 成果報告

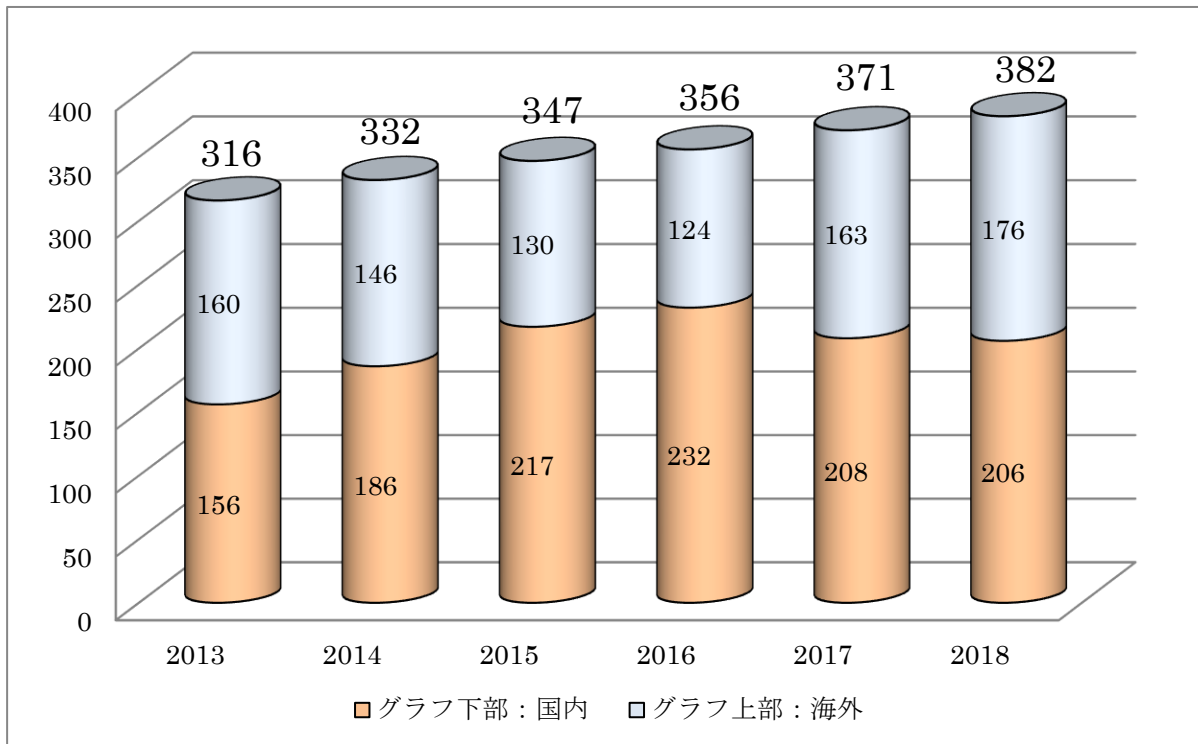
TIFFCOM2018 は、昨年に引き続き、音楽の国際マーケットである TIMM (第 15 回国際ミュージックマーケット)、アニメ企業の出展による TIAF (東京国際アニメ祭 2018 秋)、とともに「Japan Content Showcase」(JCS)のバナーの下、多様なコンテンツが一堂に会する合同マーケットとして開催された。

JCS/TIFFCOM として過去最高となる 382 の出展団体が参加し、来場バイヤー数は登録費用の要因で 823 人と減少するが、商談件数は 8201 件と昨年対比 105%、過去 10 年間順調に増加している。



**【出展者の状況】**

2018年度 出展団体数【 海外：176／国内：206 合計：382 】



**国・地域別出展団体数**

<b>アジア</b>	150	タイ	14	ルーマニア	8
カンボジア	16	ベトナム	1	ロシア	3
中国	14	<b>日本</b>	<b>206</b>	スイス	1
香港	11	<b>ヨーロッパ</b>	<b>22</b>	イギリス	3
インド	2	アルメニア	1	<b>北米</b>	<b>3</b>
韓国	39	フランス	1	カナダ	1
マレーシア	1	ドイツ	1	アメリカ	2
フィリピン	2	コソボ	2	<b>南米</b>	<b>1</b>
シンガポール	4	リトアニア	1	チリ	1
台湾	46	マルタ	1		

アジア 前年対比 117% (前年 128)、日本 前年対比 99% (前年 208)  
 ヨーロッパ 前年対比 169% (前年 13)、北米 前年対比 25% (前年 12)、  
 南米 前年対比 17% (前年 6)

**【バイヤーの状況】**

■ 2018年度 : 823人 ※ 2017年度より154人減少

**国・地域別来場バイヤー数**

<b>アジア</b>	448	台湾	75	スイス	1
ブルネイ	1	タイ	33	イギリス	5

カンボジア	4	ベトナム	13	北米	71
中国	100	日本	230	カナダ	7
香港	66	ヨーロッパ	56	アメリカ	64
インド	1	ベルギー	2	南米	9
インドネシア	7	エストニア	2	ブラジル	2
韓国	90	フィンランド	1	メキシコ	7
キルギス	1	フランス	19	オセアニア	2
ラオス	1	ドイツ	14	オーストラリア	2
マカオ	4	ハンガリー	1	中近東	7
マレーシア	14	イタリア	1	イラン	2
モンゴル	1	ノルウェー	1	クウェート	1
ネパール	2	ロシア	3	サウジアラビア	1
フィリピン	8	スペイン	4	トルコ	2
シンガポール	27	スウェーデン	2	アラブ首長国連邦	1

アジア 前年対比 98% (前年 459)、日本 前年対比 66% (前年 348)

ヨーロッパ 前年対比 65% (前年 85)、北米 106% (前年 67)、南米 64% (前年 14)

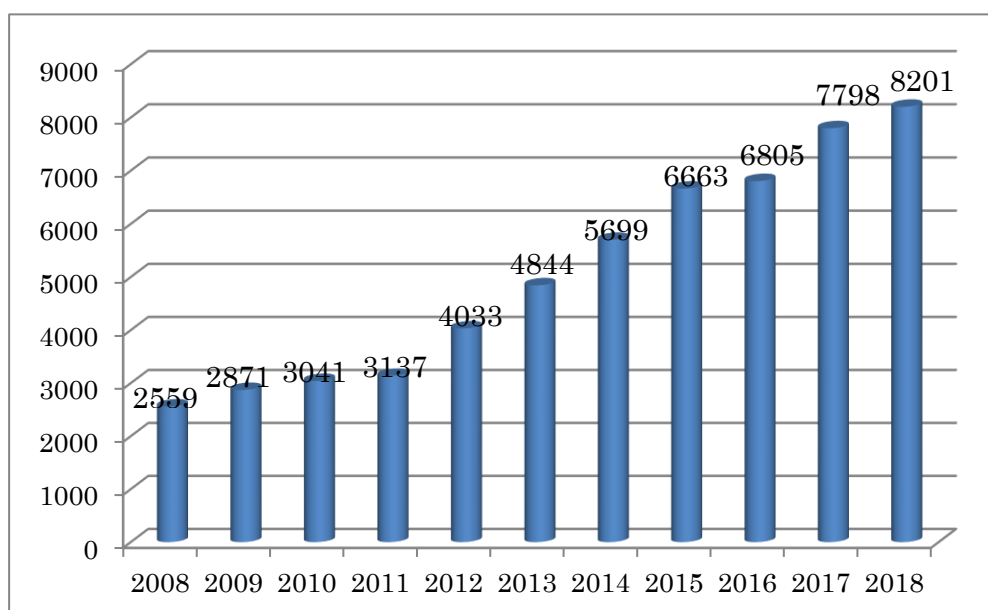
オセアニア 前年対比 100% (前年 2)、中近東 350% (前年 2)

2018年はバイヤーバッジの無償提供をやめ、全て有償としたこともあって、バイヤー来場者数は減少した。しかし、減少分の77%が日本人バイヤーであり、有償化にも関わらず、海外バイヤーの減少は少なかった。日本人バイヤーはこれまでのアシスタントバイヤーが減ってメインバイヤーが残る形となり、海外バイヤーも購入意欲の高いバイヤーがしっかり来場することで精選されたメンバーでのマーケットとなっており、商談件数・総契約金額も増加、マーケットとしての価値は高まっていると考えられる。

#### [商談結果の状況]

■ 2018年度 : 総契約金額 : \$63,340,750

商談件数 : 8201件



商談件数は着実に増えており、総契約金額も昨年から\$3,000,000以上増加。マーケットとしての規模は着実に大きくなっている。

#### [JCS セミナーの状況]

全 13 セミナーを開催。

主な TIFFCOM 関連セミナー

「TIAF 企画 海外アニメ製作プロデューサーによるピッチセッション&マッチング」

「国際共同製作セミナー (日本-ヨーロッパ-アジア)」

「コンテンツ配信の現状と新たな資金調達手法」

「MPA /DHU /TIFFCOM フィルムワークショップ」

### 3. 国際支援事業

#### 【 国際展開支援 】

#### (1) 海外の国際映画祭・映画賞への出品支援 (文化庁の委託事業)

海外映画祭に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

#### ■ 平成 30 年度支援実績

##### 1. 支援内容と支援件数

###### (A) 海外映画祭等への出品・参加に対する支援

- ・ 外国語字幕制作への支援 申請件数 29 採択件数 14
- ・ 映画製作者の海外渡航への支援 申請件数 33 採択件数 9

###### (B) 指定映画祭参加への支援

- ・ カヌヌ、ベネチア、ベルリン映画祭の長編コンペ部門参加への支援 採択件数 3
- ・ その他の指定映画祭の長編コンペ部門参加への支援 採択件数 1

###### (C) 自主制作映画の海外映画祭等参加への支援

- ・ 外国語字幕制作への支援 申請件数 18 採択件数 4
- ・ 映画製作者の海外渡航への支援 申請件数 72 採択件数 35

##### 2. 選考

###### (A) 前期、中期、後期に分け、それぞれ選考委員会を開催し支援作品の選考を行った。

- ・ 前期 (4月~7月) 申請件数 72 採択件数 35
- ・ 中期 (8月~11月) 申請件数 51 採択件数 19

・後期（12月～3月） 申請件数 31 採択件数 12

(B) 選考委員会のメンバーは以下の5名に委嘱した。

- ・坂野 ゆか（公益財団法人川喜多記念映画文化財団）
- ・新藤 次郎（協同組合日本映画製作者協会代表理事）
- ・華頂 尚隆（一般社団法人日本映画製作者連盟）
- ・石坂 健治（日本映画大学教授）
- ・恩田 泰子（読売新聞社文化部記者）

## （2）日本映画・映像コンテンツの海外発信支援（文化庁の委託事業）

### ■ 主要映画見本市への「ジャパンプース」出展

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を出展、日本映画情報センターとして活用する他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う事業者提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開を支援している。

出展した映画祭

- (A) カンヌ国際映画祭マーケット（開催日程 5月8日～17日） 公式出品作品 5本  
日本貿易振興機構（JETRO）との共同ブースを開催。 ブース参加日本企業 14社  
参加日本企業および彼らの新作日本映画を紹介する小冊子を作成・ブースで配布。
- (B) アヌシー国際映画祭マーケット（開催日程 6月13日～16日） 公式出品作品 20本  
ブース参加日本企業 0社
- (C) トロント国際映画祭マーケット（開催日程 9月6日～16日） 公式出品作品 7本  
\*9月10日の19時～21時にトロント市内のCSI(The Centre for Social Innovation)にて「ジャパン・フィルム・ナイト」を開催。  
塚本晋也監督（『斬、』）、濱口竜介監督（『寝ても覚めても』）、近浦啓監督（『Complicity』）をはじめ、関係者151名が参加。
- (D) ベルリン国際映画祭マーケット（開催日程 2月9日～17日） 公式出品作品 6本  
ブース参加日本企業 11社
- (E) 香港国際映画祭マーケット（開催日程 3月18日～21日） 公式出品作品 10本  
日本貿易振興機構（JETRO）との共同ブースを開催。 ブース参加日本企業 29社  
参加日本企業および日本映画マーケット上映を紹介する小冊子を作成・配布。  
また、平成30年度に公開された新作日本映画の紹介冊子が完成し、香港で配布した。  
\*2019年3月20日の18時30分～20時30分にThe Harbourview Hotelにて「Japan Networking Party」を開催。ジャパンプース参加企業をはじめ、関係者約263名が参加した。

## （3）国際共同製作支援（経済産業省の委託事業）

### ■ 国際共同製作認定事業

1. 国際共同製作の認定業務及び日中協定における取組機関としての事務業務
  1. 応募要項、応募様式の作成

### ① 検討委員会の実施

検討委員会では識者、関連団体を交えて、国際共同製作認定制度の内容や認定基準について協議し、修正を提起・承認した。

日 時： 平成 30 年 8 月 2 日（木） 15：00～17：00

場 所： 公益財団法人ユニジャパン 東劇 9F 会議室

参加者： 有識者以下 6 名

日本アカデミー賞協会 事務局長／富山 省吾（座長）

株式会社タラ・コンテンツ プロデューサー／井関 惺

有限会社ユーロスペース 代表取締役／堀越 謙三

特定非営利活動法人映像産業振興機構 事務局次長／槇田 寿文

株式会社手塚プロダクション 取締役／清水 義裕

株式会社ロボット プロデューサー／小出 真佐樹

参加省庁： 経済産業省、文化庁、外務省

事務局： 公益財団法人ユニジャパン

### ② 応募要項・申請書類一式作成

上記検討委員会の協議を受けて、国際共同製作認定の応募要項・申請書式を更新

## 2. 申請予定者向けの説明会開催概要

- ・ 日 時：第 1 回 平成 30 年 9 月 26 日（金） 14：00～15：30  
第 2 回 平成 30 年 10 月 2 日（火） 14：00～15：30
- ・ 会 場：銀座 Uni-ku 貸会議室 G-301 大会議室（3 階）
- ・ 参加者：第 1 回 76 人  
第 2 回 81 人  
合 計 157 人

## 3. 募集活動

上記説明会に加え、ユニジャパン公式サイト、SNS、ニュースレターなどによって認定制度の告知啓蒙を行った。

## 4. 認定作業

### ① 認定委員会開催

- ・ 日 時： 平成 30 年 12 月 10 日（月） 14：00～16：00
- ・ 会 場： 公益財団法人ユニジャパン会議室
- ・ 参加委員： 有識者 3 名
- ・ 参加省庁： 経済産業省、文化庁、外務省

### ② 国際共同製作認定申請

申請 18 件、更新企画 1 件、計 19 件  
認定 9 件

## 文化庁採択 5 件

番号	区分	企画名	申請団体名	共同製作国(地域)
1	劇映画	アネット	(有)ユーロススペース	フランス
2	劇映画	小野田-ジャングルの一万夜(仮)	(株)CHIPANGU	フランス/ドイツ/ ベルギー/イタリア
3	劇映画	City Bird(仮)	松竹(株)	中国
4	劇映画	日本のシドニー	(有)キリシマー九四五	フランス
5	アニメ	リョーマ！The Prince of Tennis 新生劇場版テニスの王子様	ギャガ(株)	マレーシア

### 5. 中国との調整

平成 30 年 5 月 9 日に日中両国政府による映画共同製作協定の署名が行われ、協定は同日発効した。当財団が取扱期間として委任を受けたのを受けて、国際共同製作認定応募要項にも日中協定に基づく認定の申請に対応する修正を行い、上記説明会でも説明を行った。これまでに 6 作品の日中協定に基づく認定申請が行われ、3 作品に暫定確認書が送付された。

## II. 国際共同製作推進のための各種取組

### 1. セミナーの開催

題名：国際共同製作セミナー<日本-ヨーロッパ-アジア>

日時：平成 30 年 10 月 24 日(水)11:00-12:30

会場：JCS セミナールーム

事前予約制／日英同時通訳

#### セミナー概要

日本、欧州、アジアから識者を招いて、パネルディスカッション形式で、映画の国際共同製作の可能性についてそれぞれの立場から知見を語ってもらう。終了後には、マッチングを目的としたミーティングなどの時間も設けた。

パネリスト：

中沢敏明（株式会社セディックインターナショナル）

アレクサンドラ・ルブレ（European Producers Club）

ジェフリー・チャン（BONA FILM GROUP）

モデレーター：

パスカル・ディオ（Venice Production Bridge）

主催：経済産業省／公益財団法人ユニジャパン

参加者数 171 名

### 2. 海外プロデューサーとのマッチング（ラウンドテーブル）実施

日時：10 月 24 日（水） 12：50～13：30

会場：サンシャインシティ コンベンションセンター JCS セミナールーム

- ・ 参加海外プロデューサー：
  - アレクサンドラ・ルブレ (European Producers Club)
  - ジェフリー・チャン (BONA FILM GROUP)
  - パスカル・ディオ (Venice Production Bridge)
- ・ 日本側参加者数：10名
- ・ のべ商談件数：計27件

## 【 情報発信 】

### （１）海外向け日本映画データベース・Japanese Film Database (JFDB) の運営

（国際交流基金との共同事業）

主に21世紀の日本映画に関して、日本で唯一の日英バイリンガルのオンラインデータベースの運営を継続的に行っている。平成30年には日本国内で1週間以上劇場公開された作品を中心に、約350本を新規掲載し、JFDBアーカイブと題した一部のクラシック作品も含め、現在合計で5,786作品のデータを収めている。またメジャー映画マーケットでのセールス作品に特化したページ、“Market Look”を開設し、海外販売をサポートしている。

### （２）海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布（文化庁の委託事業）

海外における日本映画の上映促進を目的とし、主要映画祭・映像見本市にて配布するべく、平成30年に劇場公開された代表的な日本映画・劇場版アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載した小冊子を作成した。

#### ■ Japanese Film 2019 の概要

- ① 配布数： 3,000部
- ② 配布先： カヌヌ、アヌシー、トロント、TIFFCOM（東京）、ベルリン、香港の各映画祭、見本市での配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所、駐日外国公館に送付
- ③ 掲載作品： 選考委員会により80作品を選出し、日本語・英語併記で紹介
- ④ 日本映画産業統計： 一般社団法人日本映画製作者連盟、一般社団法人外国映画輸入協会より協力を得て、各種統計情報を掲載

### （３）第15回 文化庁映画週間の実施（文化庁の委託事業）

我が国の映画芸術の向上とその発展に資するため、文化庁映画賞として優れた文化記録映画作品（文化記録映画部門）及び永年にわたり日本映画を支えてきた功労者（映画功労部門）に対する顕彰を行った。また、日本映画の製作者と観客をつなげるための活動を促進するべく、国内外の現状と展望を広く紹介することをテーマにした全国映画会議を実施した。

## 【平成30年度文化庁映画賞】

### ●文化庁映画賞贈呈式

- ・会期：平成30年10月25日（木）19時00分～
- ・会場：グランドハイアット東京「コリアンダー」
- ・主催：文化庁

### 平成30年度文化庁映画賞文化記録映画部門受賞作

- [文化記録映画大賞] 『まぶいぐみ～ニューカレドニア引き裂かれた移民史～』  
監督：本郷義明 製作：シネマ沖縄
- [文化記録映画優秀賞] 『米軍が最も恐れた男その名は、カメジロー』  
監督：佐古忠彦 製作：TBSテレビ
- [文化記録映画優秀賞] 『Ryuichi Sakamoto: CODA』  
監督：スティーブン・ノムラ・シブル 製作：SKMTDOC, LLC

### 平成30年度文化庁映画賞映画功労部門受賞者

- 佐藤 正義（映像美術・装置）  
瀬川 徹夫（映画録音技師）  
瀬山 武司（アニメーション編集）  
牧野 守（日本映画史研究）  
丸池 納（映画撮影）  
山本 逸美（整音・選曲）

### 平成30年度文化庁映画賞選考委員

#### [文化記録映画部門]

- 岡田 秀則（国立映画アーカイブ主任研究員）  
奥村 賢（明星大学デザイン学部教授）  
谷川 建司（早稲田大学政治経済学術院客員教授／映画ジャーナリスト）  
山内 隆治（東京大学学術支援専門員）  
山田 顕喜（日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師／元日本大学芸術学部教授／元日本映画テレビ技術協会理事）  
山名 泉（フリー／すかがわ国際短編映画祭実行委員）

#### [映画功労部門]

- 芦澤 明子（映画カメラマン）  
小出 正志（東京造形大学教授／日本アニメーション学会会長）  
新藤 次郎（株式会社近代映画協会代表取締役）  
中嶋 清美（公益社団法人映像文化製作者連盟理事・事務局長）  
野村 正昭（映画評論家）



## ●文化庁映画賞受賞記念上映会

- ・会期：平成30年10月28日（日）

11時00分～『米軍が最も恐れた男その名は、カメジロー』上映

Q&Aゲスト：佐古忠彦（監督） 司会：西村隆（一般社団法人PFF）

14時00分～『Ryuichi Sakamoto: CODA』上映

Q&Aゲスト：スティーブン・ノムラ・シブル（監督）

司会：西村隆（一般社団法人PFF）

17時00分～『まぶいぐみ～ニューカレドニア引き裂かれた移民史～』上映

Q&Aゲスト：本郷義明（監督） 司会：西村隆（一般社団法人PFF）

- ・会場：神楽座
- ・主催：文化庁

## ●シンポジウム「日中映画製作の新展開」

- ・会期：平成30年10月29日（月）13時00分～
- ・会場：六本木アカデミーヒルズ49オーディトリウム
- ・主催：文化庁
- ・共催：公益財団法人ユニジャパン

### ■第一部：シンポジウム『日中共同製作現場の成長と今後』

[ゲスト] テレンス・チャン（プロデューサー）

[モデレーター] 劉 文兵（日中映画研究者）

### ■第二部：『国際共同プロジェクトの現状』

[ゲスト] 柳島 克己（撮影監督／東京芸術大学大学院名誉教授）

[モデレーター] 劉 文兵（日中映画研究者）

### ■第三部：Q&A

## 【 国際交流 】

### （1）平成30年度ASEAN文化交流・協力事業（アニメーション・映画分野）の実施

（文化庁の委託事業）

成長著しく、映画の発展途上の段階と言えるASEAN諸国に、日本が強みを持つ映画とアニメーション分野の専門人材を派遣し、現地において実践的ワークショップ等を行うことにより、現地の若者たちのスキルアップを図るとともに、日本の制作者達とのコミュニケーションを通して、相互理解を深め、国際的な人材育成の促進の一翼を担った。

#### 業務実施内容

##### 【マレーシア】

##### デジタルシネマ制作ワークショップ

実施地：クアラルンプール（マレーシア）

内 容：撮影照明ワークショップ及び編集、美術、録音のマスタークラスを実施。

撮影照明は、スタジオ撮影班、ロケ撮影班と二手に分かれ、屋内は美術班が予めスタジオ内に建てた部屋セットに、屋外は大道具（自動車）にそれぞれ役者を立て撮影（カメラ）、照明を学生に交互に担当させ、講師の指導の下、自主的に撮影を実施。編集、美術、録音の各マスタークラスは、映像や機材（マイクガン、16mmフィルムなど）、美術資料などを用いて、学生に実際に触れさせ、実践的な講義を行った。今年度は、ASEAN加盟10カ国から学生が参加し、映画制作の各専門分野を学び、より国際的な交流の場となった。

実施時期：平成30年11月12日～11月16日（5日間）

実施場所：Multimedia University スタジオ（撮影場所としてスタジオ、屋外を使用）

Multimedia University e-theater（編集、美術、録音のマスタークラス）

講師：柳島 克己（撮影監督／東京藝術大学 名誉教授）

浦田 秀穂（撮影監督／ラサール芸術大学（シンガポール）教授）

磯見 俊裕（美術監督／東京藝術大学大学院映像増研究科 教授）

三ツ松 けいこ（美術監督／東京藝術大学大学院映像研究科 非常勤講師）

村上 雅樹（編集技師）

藤本 賢一（録音技師）

#### <スケジュール>

11月10日～11日／セット組立（美術）、機材確認（撮影・照明）

11月12日／全員参加のオリエンテーション、午後より実習開始（撮影・照明）

11月13日、14日／スタジオ内外での撮影と照明実習

11月15日／午前：編集マスタークラス、午後：美術マスタークラス

11月16日／午前：録音マスタークラス、午後：ワークショップの総括

参加者：受講生／24名

#### <受講生の所属>

Mahakarya Institute of the Arts Asia（ブルネイ）2名

Filkhmer Studio（カンボジア）2名

Jakarta Institute of Arts（インドネシア）2名

Luang Prabang Film Festival（ラオス）2名

Multimedia university（マレーシア）4名

Wathann Film Festival（ミャンマー）2名

University of the Philippines Film Institute（フィリピン）2名

LASALLE College of the Arts（シンガポール）4名

Silpakorn University（タイ）2名

The University of Theatre-Cinema HCMC（ベトナム）2名

#### 【タイ】

アニメーションブートキャンプ 2018 ASEAN

実施地：ナコーン・パトム（タイ）

内 容：アニメーター育成プログラム

参加者 31 名を 6 班に分け、まずは「歩き」の作画から始め、最終的には各班メンバーがそれぞれ 1 カットずつ担当し、子供がスイカを運搬する短いアニメーション作品を制作した。また、参考として、板津講師の初監督作品『みつあみの神様』が上映され、鑑賞後には課題の完成作を上映し、講評が行われた。今年度は、アニメーションを作り出す上で正しい順番などの「考え方」をしっかりと理解し、2D, 3D 関係なく通用する論理的な思考を身に付けられるようカリキュラムを修正した。

実施時期：平成 30 年 12 月 21 日～12 月 23 日（4 日間）

\* 12 月 20 日/事前オリエンテーション

\* 別途、12 月 24 日（月）に Silpakorn University にて反省会を行った。

実施場所：Silpakorn University, Sanam Chandra Place Campus（ナコーン・パトム）

講 師：瀬谷 新二（作画監督／株式会社手塚プロダクション 製作局 作画部長）

板津 匡覧（アニメーター・監督）

大久保 徹（キャラクター・デザイン・作画監督／

株式会社プロダクション・アイジー）

上映作品：『みつあみの神様』（株式会社プロダクション・アイジー提供）

#### <スケジュール>

12 月 20 日/午後：オリエンテーション、実習開始

12 月 21 日/実習

12 月 22 日/実習

12 月 23 日/午前：実習

午後：『みつあみの神様』上映（板津講師初監督作品）

実習の完成作品の上映と講評

クロージングセレモニー

12 月 24 日/午前：ワークショップ総括及び反省会

参加者：受講生／31 名

<受講生の所属>

Silpakorn University

-Visual Communication Design Department, Faculty of Decorative Arts:17 名

-Interior Design Department, Faculty of Decorative Arts:2 名

-Applied Arts Department, Faculty of Decorative Arts:2 名

Indonesian Institute of the Arts, Yogyakarta (ISI ジョグジャカルタ校)

-Visual Communication Design:4 名

\* 内 6 名は、東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻の学生

\* 藝大生は、藝大の費用で渡航

## (2) 日中映画人交流事業（文化庁の委託事業）

映画を通じた日中人材交流・上映機会の創出等行うことで、我が国の映画振興に資する日中間の相互理解の促進、更なる文化交流の契機とするため、日本国内において、日本及び中国の文化や社会を映し出す日本映画・中国映画に関する交流事業を開催した。

本番実施日程	内容
3月5日（火）	「日中映画人フォーラム2019」&交流会（レセプション）
3月6日（水）	「電影2019」（東京）上映＋セレモニー
3月7日（木）	「電影2019」（東京）上映
3月8日（金）	（大阪アジア映画祭開幕）
3月9日（土）	「電影2019」（大阪）上映＋セレモニー
3月10日（日）	「電影2019」（大阪）上映

### 業務の実績の説明

#### ① 意見交換会及び講演会の開催（「日中映画人フォーラム2019」）

【主催】 文化庁、公益財団法人ユニジャパン

【会場】 六本木アカデミーヒルズ 49 オーディトリウム（座席数最大 160）

【日時】 2019年3月5日（火）14：30～18：30

【参加費】 無料（日本語中国語の同時通訳あり）

#### 【フォーラム内容】

##### 主催者挨拶

登壇者： 坪田 知広（文化庁 参事官 [芸術文化担当]）

##### イントロダクション「国際共同製作の持つ意義」

登壇者： 椎名 保（公益財団法人ユニジャパン 副理事長）

##### 《第一部》「日本の撮影監督が中国で目指すもの」

登壇者： 浜田 毅（撮影監督）

モデレーター： 森重 晃（プロデューサー）

##### 《第二部》「オンラインチケット：中国の日本映画の観客トレンド分析」

登壇者： カン・リー（猫眼娯楽 COO）

モデレーター： 分部 悠介（JC FORWARD 代表取締役社長・CEO／弁護士）

##### 《第三部》「コプロダクション：中国で映画づくりをどのように始めるか」

登壇者： エレン・エライアソフ（パーフェクトビレッジエンタテインメント

社長兼最高経営責任者・プロデューサー）

フィリップ・リー（プロデューサー）

モデレーター： 分部 悠介（JC FORWARD 代表取締役社長・CEO／弁護士）

【参加者】 151 人（オンラインによる事前登録方式）

#### ② 上映会の開催（中国映画祭「電影2019」）

【会期】 2019年3月

（東京） 3月6日（水）、7日（木）

(大 阪) 3月9日(土)、10日(日)

- 【開催地】 東 京：角川シネマ有楽町  
大 阪：梅田ブルク7
- 【主 催】 文化庁、公益財団法人ユニジャパン、上海国際影視節有限公司
- 【共 催】 独立行政法人国際交流基金
- 【後 援】 中華人民共和国駐日本国大使館、中華人民共和国駐大阪総領事館
- 【上映作品】 合計6作品。※2018年～2019年に中国で公開された最新中国映画で構成。

上映作品一覧：

- 『失踪、発見』（中国語タイトル：『找到你』）  
『ペガサス／飛馳人生』（中国語タイトル：『飛馳人生』）  
『アイランド／一出好戲』（同：『一出好戲』）  
『駐在巡查 宝音（ボヤン）』（中国語タイトル：『片警宝音』）  
『アラ・チャンソ（原題）』（中国語タイトル：『阿拉姜色』）  
『選ばれざる路／未択之路』（同：『未択之路』）

【東京オープニングセレモニー】

3月6日(水) 15:00～

- 挨拶： 宮田 亮平 文化庁長官  
王 曄 上海国際映画祭副総経理  
程 永華 中華人民共和国駐日本国大使館特命全権大使  
西村 康稔 内閣官房副長官  
ソントルジャ 『アラ・チャンソ』監督  
フフバートル 『駐在巡查 宝音(ボヤン)』プロデューサー  
柳島 克己 『駐在巡查 宝音(ボヤン)』撮影監督

【東京上映結果】

日時：3月6日(水)、7日(木)

会場：角川シネマ有楽町

- 作品・客数：①オープニングセレモニー、オープニング作品『失踪、発見』/動員数:202名  
②『ペガサス／飛馳人生』/動員数:200名  
③『アイランド／一出好戲』/動員数:118名  
④『駐在巡查 宝音（ボヤン）』/動員数:111名  
⑤『選ばれざる路／未択之路』/動員数:77名  
⑥『アラ・チャンソ（原題）』/動員数:151名

【大阪オープニングセレモニー】

3月9日(土) 11:30～

- 挨拶： 内藤 敏也 文化庁審議官  
王 曄 上海国際映画祭副総経理  
李 天然 中華人民共和国駐大阪総領事

【大阪上映結果】

日時：3月9日(土)、10日(日)

会場：梅田ブルク7

- 作品・客数：①オープニングセレモニー、オープニング『ペガサス／飛馳人生』上映 153 名  
 ②『失踪、発見』上映、QA 117 名  
 ③『アラ・チャンソ（原題）』上映、QA 95 名  
 ④『アイランド／一出好戯』 131 名  
 ⑤『駐在巡查 宝音（ボヤン）』 93 名  
 ⑥『選ばれざる路／未択之路』 47 名

【上映動員数計】

東京 859 名＋大阪 636 名＝合計 1,495 名

③ 交流会（レセプション）の開催

【主催】 文化庁、公益財団法人ユニジャパン

【会場】 六本木アカデミーヒルズ 49 タワーホール

【日時】 2019 年 3 月 5 日（火）19：00～21：00

【参加費】 無料（日本語中国語の逐次通訳あり）

挨拶：	坪田知広	文化庁参事官
	石永菁	中国駐日本国大使館 文化参事官
	椎名保	公益財団法人ユニジャパン 副理事長
登壇ゲスト：	浜田毅	撮影監督
	森重晃	スチューディオスリー プロデューサー
	分部悠介	JC FORWARD 代表取締役社長・CEO／弁護士
	フィリップ・リー	プロデューサー
	エレン・エライアソフ	パーフェクトビレッジエンタテインメント 社長兼最高経営責任者・プロデューサー
	ガオ・リー	テンセントピクチャーズ
	タン・ジュン	アリババピクチャーズ
	イーイエオ・チャン	ブリスメディア

【参加者】 103 人（オンラインで事前登録した映画関係者）

**（3）日仏映画業界の協力（国際交流基金、日本映画製作者連盟等の協力を得て実施）**

フランス国立映画センター（CNC）とユニジャパンとは両国の映画業界の交流と協力を促進させるべく、新たな協力協定を交換し、日仏協力した映画作りに関係した両国の映画人を招いたラウンドテーブルを実施した。

①CNC ユニジャパン共催ラウンドテーブル

日時： 2019 年 2 月 15 日 15：00～17：00

場所： CNC 試写室

ラウンドテーブル登壇者 6 名+司会者 1 名

登壇者：

- 1) ミュリエル・ムラン(是枝監督新作のプロデューサー)
- 2) 河瀬 直美 (監督)
- 3) ジュリエット・シュラメック (MK2 のプロデューサー)
- 4) 市山 尚三 (kino international)
- 5) 澤田 正道 (在パリ P/コムデ・シネマ代表)
- 6) アリー・アデス (フィルム・フランス)

司会者：ロナン・ジール

聴衆者としてフランスの映画業界人約 50 人が参加、プレスは共同通信、テレビ朝日、NHK、産経、読売、シネマトゥデイ、フィルム・フランセ、エクラン・トータル、サテリファックス、等が出席した。

## ② 日仏協力協定交換式

日時： 2 月 15 日 17 : 15 ~ 17 : 30

場所： CNC 試写室

参加者：CNC のプレジデント代理のクリストフ・タルデュー、ユニジャパン椎名副理事長

## 【 人材育成 】

### 「第 40 回 PFF」の共催（公益財団法人川喜多記念映画文化財団の補助事業）

公益財団法人川喜多記念映画文化財団の指定寄付を受けて、「第 40 回ぴあフィルムフェスティバル（PFF）」に共同主催として参画した。

#### ■開催概要

- ・会期：2018 年 9 月 8 日（土）～22 日（土）
- ・会場：国立映画アーカイブ
- ・主催：一般社団法人 PFF、独立行政法人国立美術館 国立映画アーカイブ、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン

#### ■最終審査員

- ・佐藤 公美（映画プロデューサー）
- ・大九 明子（映画監督）
- ・佐藤 信介（映画監督）
- ・富永 昌敬（映画監督）
- ・生田 斗真（俳優）

## ■受賞結果

- ・ グランプリ 『オーファンズ・ブルース』（工藤梨穂 22歳）
- ・ 準グランプリ 『ある日本の絵描き少年』（川尻将由 30歳）
- ・ 審査員特別賞 『川と自転車』（池田昌平 33歳）  
『19歳』（道本咲希 20歳）  
『すばらしき世界』（石井達也 20歳）
- ・ エンタテインメント賞（ホリプロ賞） 『からっぽ』（野村奈央 23歳）
- ・ ジェムストーン賞（日活賞） 『ある日本の絵描き少年』
- ・ 映画ファン賞（ぴあ映画生活賞） 『すばらしき世界』
- ・ 観客賞 『一文字拳 序章—最強カンフー少年対地獄の殺人空手使い』  
(中元 雄 26歳)
- ・ ひかり TV 賞 『オーファンズ・ブルース』

## ■東京国際映画祭での提携企画

- ・ PFF アワード 2018 受賞作品上映

上記グランプリ作品を上映、監督・出演者が観客との質疑応答に参加した。また、監督・出演者をレッドカーペットやオープニング・パーティに招待し、海外映画祭関係者やメディア関係者との交流を促進した。